

## 『地方教育史研究』バックナンバー（2021/08/19現在）

号	発刊年	残部	所収研究論文	備考
1	1980	無	○大正・昭和初期新教育運動の研究(志村廣明)	
2	1981	有	○明治初期・石川県の学校設置問題―「興学六弊」とその「疑問」をめぐって―(神辺靖光)、○学制期島根県の巡回教師に関する一考察(笹森健)	
3	1982	無	○沖縄における「廃藩置県」前後の教育―首里中学校教育を中心として―(安里彦紀)、○明治前期「教育会議」研究序論―「文部省年報」を手がかりに―(片桐芳雄)、○占領期における新教育展開の実態―愛知県実験学校協議会を中心にして―(酒井宏明)	
4	1983	無	○鹿児島県中等教育史研究序論―女子教育を中心として(二見剛史)	
5	1984	有	○近世藩校の財政状況について(高木靖文)、○教育の階層構造と寺子屋の発展―筑後国生葉郡・竹野郡を中心として―(木村政伸)、○子守学校の研究(一)―開設の背景と目的―(長田三男)、○神奈川県の子守学校―明治期、公立高等女学校の設立過程―(福田須美子)	
6	1985	有	○明治期北海道に於ける初等教育の編成(谷内鴻)、○東京府下における明治初期庶民教育と公立小学校の成立過程―南葛飾郡江戸川区域を例にして―(山田真佐男)、○明治後半期の就学督励と学齢児童統計―関西三府県を素材に―(三原芳一)、○戦前都市生活教育論の実践構造の分析―社会科実践史としての視点から―(坂井俊樹)	
7	1986	少	○明治期教科書疑獄事件―千葉県の一局面から―(三浦茂一)、○明治期小学校への「御真影」の下賜侵透過程(小林輝行)、○郡山の子守学校(長田三男)	
8	1987	少	○初期秋田藩校の運営構想―「学館記」の成立とその意義―(加藤民夫)、○明治期実業教育機関への「御真影」の下賜侵透過程(小林輝行)、○新発田藩校の発達型態について(高木靖文)、○茨城県における「特別学級」の成立過程(清水寛・船橋秀彦)	
9	1988	有	○試験と明治期小学校(山本信良)、○伊奈森太郎の郷土教育とその思想(一)(別所興一)、○大正後期から昭和初期における「特別学級」の成立と展開―和歌山県南部小学校の「能力別学級」劣組の事例から―(戸崎敬子)	
10	1989	有	○教育令期における愛知県の町村立中学校―郡内全町村立宝飯中学校について―(神辺靖光)、○日清戦争期における戦時教育の展開に関する一考察―愛知県刈谷尋常小学校校務日誌の分析を通して―(吉川卓治)	
11	1990	有	○明治初期福井県における教育とお雇い教師―E.H.マゼットとM.N.ワイコフを中心に―(蔵原三雪)、○明治中期地方新聞の教育論調―佐賀新聞社説にみる―(生馬寛信)、○兵庫県における二部教授に関する考察―明治後期から大正期を中心として―(藤本彰教)、○北海道の「洋風」学校建築(谷内鴻)	
12	1991	有	○明治十年代兵庫県における中学校設立をめぐる諸問題(宮川秀一)、○明治前期における小学校教育の資格について―兵庫県の小学校教育の資格を中心に―(谷口育史)、○戦後初期、茨城県におけるコア・カリキュラム実践小学校の特殊学級―茨城県猿島郡静小学校の「仲よし」学級の成立過程―(船橋秀彦)、○新聞に見る子どもの遊びの地域比較(景山雄二)	
13	1992	有	○『日本教育史資料』収載八戸藩学制関係記録についての検討―『旧八戸藩学制沿革取調要目稿』との比較考量を中心に―(石川松太郎)、○「小学校史」の図版について―関東地方を中心として―(山本信良)	
14	1993	有	○明治期民間育英奨学事業の一断面―旧藩系主体の団体をめぐって―(菅原亮芳)、○秋田県における郷土教育運動の展開(黒沢正尚)	
15	1994	有	○近世往来物で扱われた年中行事と地域差―消息型往来を中心に―(天野晴子)、○佐賀藩弘道館と多久東原庫舎―草場珮川の弘道館登用問題を中心とした一考察―(生馬寛信)、○近代学校成立過程において在村医が果たした役割について―松江藩神門郡松枝村増原家一族の学問修業と行事を通して―(梶谷光弘)、○鹿児島藩・県及び都城県における郷校の展開と推移(井原政純)	
16	1995	有	○島津奨学資金による育英事業の成立と展開―造士館との関連を中心として―(中川言美)、○薩摩藩の実学思想と森有礼(上沼八郎)	

17	1996	少	○江戸の寺子屋における学習過程について(菱田隆昭)、○世田谷における郷学所の設立基盤・要因に関する一考察—幼学舎と太子堂郷学所を中心に—(井原政純)、○学芸会の教育目的の二重性と其の矛盾—普及・定着期における愛知県を事例として—(内田純一)	
18	1997	有	○一八八〇年代における小学校の設立と社会的意識の変容—静岡県駿東郡御宿村ほか七か村を事例として—(坂本紀子)、○岐阜県下地方教育会の研究—安八郡教育会の発足状況—(梶山雅史)、○北方教育社同人の実践と教育観(二)—秋田県由利郡同人の弾圧下における相克について—(小田嶋悟)、○占領下岡山県の教育政策課題に果たした岡山県軍政部の役割(大矢一人)	
19	1998	有	○福井藩にみる「文武学校」の展開過程—明新館時代を中心として—(熊澤恵里子)、○明治一〇年代末における試業制度と運動会の成立—石川県における奨学会と運動会の検討から—(大久保英哲)、○福沢諭吉門下本多和一郎と共修学舎—和歌山県打田町の「本多和一郎関係文書」に関する若干の考察—(曾野洋)、○私立慈善「福田小学校」設立の意義—当初の就学状況を主として—(戸田金一)	
20	1999	無	○学習者からみた八代伝習の性格(卜部朋)、○江戸・東京赤坂における寺子屋・家塾・市立小学校の系譜(藤田薫)、○明治中期・中学校増設問題とその背景—大分県を事例として—(永添祥多)、○明治後期におけるピアノ教育の地方普及についての研究(市川理恵)	木村先生に1部贈呈(2015.03)
21	2000	有	○一八九一(明治二四)年「中学校令中改正」後の府県管理学校の性格に関する一考察—山形県庄内尋常中学校を事例として—(荒井明夫)、○埼玉県入間郡における豊岡大学の創設過程—地域的背景との関わりを中心に—(渡辺典子)	
22	2001	有	○小学校補助教員の研究—第二次小学校令期、府県により定められた小学校教員講習科規程の検討—(遠藤健治)	
23	2002	有	○弘前藩学稽古館算術科の教育(佐藤環)、○岩手県における小学簡易科の研究—民衆の教育要求との関わりから—(軽部勝一郎)、○長野県下の学校火災と「御真影」焼失事件(小林輝行)	
24	2003	有	○明治期の詩社淡水吟社に関する考察(山本さき)、○長野県の小学校における進級システム—松本尋常高等小学校の進級認否判定を通じて—(重栖啓子)、○敗戦直後の広島県における中井正一を中心にした文化・教育活動—地域における受容と展開およびその意義に着目して—(山崎雅子)	
25	2004	少	○江戸期上層農民の読書に見る「家」永続意識—甲斐国依田家「依田家訓身持鑑」と飛騨国二木家「家訓全」の分析より(松尾由希子)、○鮑田仁恵学校の沿革について(戸田金一)、○東京教育会の活動実態—東京府学務課・府師範学校との関係—(白石崇人)、○大正末期の「実習日誌」にみられる大分県女子師範学校附属小学校の教育研究(松本裕司)	
26	2005	有	○幕末佐賀藩の学校改革と「文武課業法」制定(生馬寛信)、○学制期における小学校教員の等級とその異動—宮崎県を事例として—(関儀久)、○明治末期福岡県公立小学校における自主主義教育の実際(深谷圭助)、○都市部工業地帯における新教育実践の展開—田島小学校の体験教育を事例として—(金子知恵)	
27	2006	有	○昭和戦前期農村小学校教師による郷土教育の展開—秋田県由利郡西目村を事例として—(板橋孝幸)	
28	2007	少	○寺子屋(手習塾)における手習い学習指導法について—江戸の寺子屋を中心として—(関山邦宏)、○佐賀藩「文武課業法」における課業達成状況—藩士名簿『早引』による—(生馬寛信)、○奥州平田門人早田伝之助の教育活動—心学から平田国学へ—(熊澤恵里子)、○埼玉県師範学校の修学旅行に関する一考察—明治十七年から二十六年までの史的変遷を中心に—(浜野兼一)、○長野県下伊那郡における小学校女性教員の職業と家庭の両立問題(齋藤慶子)、○戦間期における高等工業学校の地域産業界に果たした役割—広島高等工業学校の事例—(酒井真)	
29	2008	有	○東京師範学校と西周一校務嘱託としての位置—(奥野武志)、○村落社会の二重構造と町村学事—高知県安芸郡川北村の事例—(河田敦子)、○函館商業学校と地域商業の近代化(坂本紀子)、○大正末期東京市における「身体虚弱児童」の実状とその教育に関する一考察(野口穂高)、○千葉県学務当局の「自由教育」に対する「支持」と「統制」—一九二〇年代前半における地方教育行政の基盤の分析を通じて—(山田恵吾)	

30	2009	有	○弘前藩の武芸教育—弓術を中心に—(佐藤環)、○明治初期新潟県における一斉教授法の受容過程—「教場指令法」を中心に—(杉村美佳)、○広島県における高等中学校設立計画と中学校改革の実施(小宮山道夫)、○明治二〇年代秋田県における小学校教員検定に関する研究(釜田史)、○大正末期における師範学校附属小学校の研究活動—大分県師範学校附属小学校を中心に—(松本裕司)
31	2010	有	○大津裁縫塾における門人形成のネットワーク—八八四年から一九二一年を対象に—(山下廉太郎)、○飛田遊郭設置反対運動と「性教育」をめぐる議論—一九一〇年代の男性セクシュアリティの側面から—、○戦後教育改革期の「教育指導者講習会」についての—考察—東京地区開催の幼年教育を中心に—(大岡紀理子)
32	2011	有	○明治維新期の郷学に関する—考察—小千谷学校を事例として—(八鍬友広)、○学制を迎えた農村の漢学師匠—新潟県長善館館主鈴木揚軒を事例として—(池田雅則)、○札幌農学校の初期軍事教育に関する—考察(奥野武志)、○戦後復興期における新制中学校独立校舎建設に伴うコミュニティ・ファイナンスの研究—埼玉県南埼玉郡八幡村立八幡中学校の事例から—(古川和人)
33	2012	少	○明治維新期度会府(県)における学校の設立と廃止(杉浦由香里)、○教育令期における九州各県聯合教育会の開催とその意義(湯川嘉津美)、○奈良県桜井尋常高等小学校における特別学級と新教育、○愛知第二師範学校附属小学校の教育課程の変遷—生活教育の成立と展開を中心として—(酒井宏明)、○昭和戦前期における福沢小学校・国民学校の報徳教育—「生活即教育」の展開—(須田将司)、○アジア太平洋戦争下における府県教育会機関誌の「休刊」と敗戦直後におけるその「復刊」(近藤健一郎)
34	2013	有	○福岡博物館の開設と廃止(高田麻美)、○岡山市内山下尋常高等小学校における低学年教育の展開—進学有名校の新教育実践—(鈴木和正)、○一九三〇年代における報徳教育実践の創出—神奈川県・富山県における模索の諸相—(須田将司)
35	2014	有	○米国メソジスト監督教会女性海外伝道協会立による東京市域の貧民学校に関する研究—浅草美以美小学校を中心として—(佐々木竜太)
36	2015	有	○近代北海道における野幌移住民の小学校設立過程(坂本紀子)、○四年制義務教育制度成立時の岡山県における私設小学校教員養成所—私立学校による小学校教員養成事業のはじまり—(遠藤健治)、○静岡県駿東郡における地域文集『児童文苑』に関する—考察—その背景としての教科研究会の活動に着目して(杉山実加)
37	2016	有	○戦後六・三制発足期における新制中学校校舎建設に伴うコミュニティ・ファイナンスの研究—静岡県町村教育費における財源としての寄附に焦点づけて(古河和人)
38	2017	有	○札幌農学校兵学科に関する—考察—屯田兵制と札幌農学校(奥野武志)、○日向国での英語教育の広がりとは明治初期初等教育機関における再編(田畑きよみ)、○文部大臣管理鹿児島高等中学造士館の地域性に関する—考察(荒井明夫)、○明治末期における山口県公立小学校の自学主義教育—山口県教育会雑誌の分析を中心に—(鈴木和正)、○岡山県私設小学校教員養成所への入学者層と卒業後の進路—戦前、私立学校による小学校教員養成事業が果たした女子小学校卒業生への学習機会の提供というもう一つの役割—(遠藤健治)、○大正末期から昭和初期の東京市における児童保護事業—「牛乳配給事業」を中心に—(野口穂高)、○「茨城県教育綱領」制定経緯の実相—不敬事件との関連をめぐって—(国谷直己)
39	2018	有	○「学制」期の小学校教員の辞職にみる教職観—長崎県教員の履歴史料の分析—(松尾由紀子)、○明治期の日本女子大学卒業生による「大学拡張」運動(渡辺典子)、○岡山県師範学校生徒の思想傾向に関する—考察—一九一九年実施調査の分析を中心に—(長谷川鷹士)
40	2019	有	○東京府における手工科の現職教育の展開—「手工科講義」に着目して—(高田麻美)、○戦前京都府において、私立学校卒業生は、小学校教員無試験検定合格者にどれほどの地位を占めたのか—一九三〇年代以降を中心として—(遠藤健治)

41	2020	有	○一八七九年教育令のもとで学務委員に就任した民権運動活動家をめぐって—岩手県の事例—(谷雅泰)、○奈良県女子師範学校附属小学校における児童受入方式の展開(林喜子)、○一九三〇年代の埼玉県における「新興報徳運動」と報徳教育—同時代の先行・並行事例との比較を通して—(須田将司)、○東京都における私立学校の学童集団疎開—その実施過程を中心として—(柄越祥子)
42	2021	有	○開拓使函館支庁・函館圏における学校経費確保策の展開(井上高總)、○旧学制下静岡県における准教員養成と臨時教員試験検定実施過程(丸山剛史)

\* 価格:1冊1,000円。送料込み。

\* 注文:全国地方教育史学会事務局でメールにて承ります。